

MIS009-01

会場: 301A

時間: 5月25日09:05-09:17

天文軌道要素校正による新第三紀年代尺度 (ATNTS2004) の現状と課題

Toward a refinement of the Neogene standard time scale: problems concerning with ATNTS2004

林 広樹^{1*}

Hiroki Hayashi^{1*}

¹島根大学

¹Shimane University

年代尺度の高精度化は、地質情報の高精度な時系列解析をするうえで重要な課題である。年代尺度はそれ自体が地質情報の蓄積によって編集されているため、常に最新の地質情報によって更新されることによって高精度化されてきた。

前世紀末に天文軌道要素校正の手法が理論的に確立されて以降、年代尺度にもこの手法によって年代決定された校正点が用いられるようになった。2004年に、ICSは天文軌道要素校正を新第三紀全体に適用した年代尺度を作成した(ATNTS2004: Lourens et al., 2004)。この年代尺度は新第三紀全体で2万年前後の決定精度を持つとされ、広く用いられるようになってきている。

年代尺度の不確定性を克服しさらに信頼度を向上させるためには、作成時に残されていた問題点を把握するとともに、現状の精度を独立した手法で批判的に検証することが不可欠である。本講演では、特に中新世を例としてATNTS2004の問題点を整理し、その検証と日本周辺地域への適用のために行っている最近の試みを紹介する。

キーワード:年代尺度,新第三紀,中新世

Keywords: timescale, ATNTS2004, Neogene, Miocene